



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2013.4

No.348

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



さいたま市・民家園周辺の春夏秋冬

伊藤 芳晴 (川口市)

ここ「さいたま市・民家園周辺」の探鳥会が定例化(8月を除く偶数月)したのは、1995年10月からです。そして、今も続いている調節池の工事により、環境は大きく変わりました。農耕地から大小いくつかの池を擁する広大な草原になり、見られる鳥の種類も大きく変化しています。今回は、2010年4月4日以降の探鳥会記録をもとにご紹介します。

春

4月のキーワードはピンクです。

コースは大崎公園の西側を回り込み、裏手に出て木傘神社を通り高台に上がります。このあたりは園芸農家が多く、桜を始めとするたくさんの種類の花々が、様々な色合いで参加者の皆さんの心をときめかせてくれます。その春満開の中を鳥たちの声を聞きながら進み、有料道路の下をくぐると、見晴らしのいい場所に出ます。左奥に富士山、右前方に大宮のビル群が見えるこの場所でちょっと休憩。目前の見沼代用水東縁の桜並木も絶景ポイントです。

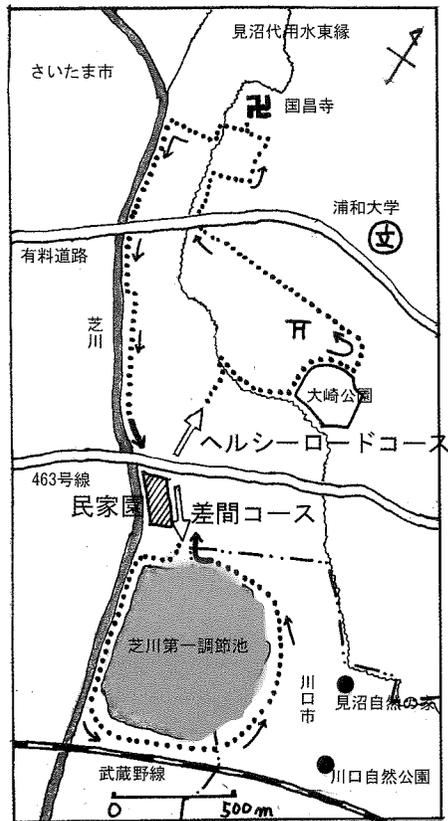
休憩後は斜面林の上の細い通路を歩きます。左手の斜面林からの木洩れ日が美しく、探鳥コースの中でも私の好きなどこです。右手は農地になっています。やがて国昌寺に到着します。トイレも自販機もあるこの場所は、途中の休憩場所にうってつけ。

さて出発。車に気をつけながら芝川を目指します。途中の農道は小鳥類が多く、ときにはキジも出ます。土手を登ると、目の前に芝川が開けます。北へ帰る前のカモ達を観ながら深呼吸をして、春の空気で呼吸器系を満たしましょう。花粉アレルギーのある方はちょっと気をつけながら……。

初夏

6月の調節池周辺は緑一色に染まります。梅雨入りが近づいており、いつもスッキリ晴れた天気ではありませんが、それでも池の周りを歩くとさわやかな風が、夏が近い事を感じさせてくれます。

耳に入ってくるのは、オオヨシキリの大合唱、セッカ独特の飛翔時の声、時々遠くから聞こえてくるカッコウ……。調節池に目を向けると、コアジサシが何度も水面にダイビング!! ……まさに初夏!!



秋

秋は渡り鳥の中継地。カメラマンやバーダーが色めき立つ迷鳥の隠れ家でもあります。

そろそろ稲刈りも始まり、モズの高鳴きが響き渡る秋10月の探鳥会は、渡りのシーズン真っ盛り。最近の探鳥会には出てくれませんが、以前はシマアジ、コジュリンやツツドリ、エゾビタキなど、普段なかなか見られない鳥たちに出会う事もありました。

サシバやノビタキは毎年姿をみせてくれます。そろそろ気の早いコガモが渡って来る頃でもあります。

この地の大きな環境変化で、毎年の様に來ていた鳥が來なくなった一方で、見られなかった鳥がよく顔を見せてくれるようになったこともあります。例えば調節池では、必ずチュウヒの姿があります(越冬している様です)。これも以前はあまりなかった事です。

現在、芝川の右岸でも工事が進められています。工事が終わった左岸の調節池周辺とはコンセプトが違う形になる様ですが、鳥達も安心して立ち寄り、人と自然がやさしくふれ合える場所になってくれればと思います。

冬

ミニ渡良瀬遊水地？ 見られる鳥の一番の変化はタカ類。

以前もオオタカやチョウゲンボウは観察されましたが、調節池を一周できるようになった昨年あたりから、多い時には6種類もの猛禽が姿を見せてくれる様になりました。探鳥会参加者の一部から、冗談半分で「ミニ渡良瀬だね」と言われるようになっていきます。

また、以前はあまり縁のなかったオオハクチョウ、コハクチョウも立ち寄る様になり、ヨシガモやミコアイサ等のカモ類も増えています。

しかし、冬の調節池を廻る探鳥会はかなりキビシイ。さえぎるものがない環境のため、強い風が吹きすさび、かなり寒い。スタート地点の民家園を出ると、トイレもなく、参加者の皆さんにご苦勞をおかけしています。

〈最後に〉

民家園周辺探鳥会にはコースが2つあります。浦和くらしの博物館民家園から南へスタートし、調節池を反時計回りで歩く「差間(さしま)コース」。もう一つは北へスタートし、見沼代用水沿い(見沼ヘルシーロード)を進み、国昌寺で一休みして、芝川に出て戻る「ヘルシーロードコース」です。

コースは季節や天候によって変えています。最近では、4月の花の季節が「ヘルシーロードコース」、それ以外が「差間コース」になる事が多いです。

No.	2010年以降の探鳥会での出現種	春		夏		秋		冬	
		10/4/4 11/4/3中止	12/4/1	10/6/6 11/6/5	12/6/3	10/10/3 11/10/2	12/10/7	10/12/5 11/12/4 12/2/5 12/12/2	
1	カイツブリ	○		○		○		○	
2	ハジロカイツブリ					○		○	
3	カンムリカイツブリ							○	
4	カワフ	○		○		○		○	
5	ゴイサギ					○			
6	ダイサギ	○				○		○	
7	コサギ	○							
8	アオサギ	○		○		○		○	
9	オオハクチョウ							○	
10	コハクチョウ							○	
11	マガモ	○				○		○	
12	カルガモ	○		○		○		○	
13	コガモ	○				○		○	
14	ヨシガモ							○	
15	オカヨシガモ	○						○	
16	ヒドリガモ					○			
17	オナガガモ					○			
18	ハシビロガモ	○				○		○	
19	ホシハシロ	○							
20	キンクロハジロ	○				○			
21	ミコアイサ							○	
22	オオタカ	○		○		○		○	
23	ハイタカ							○	
24	ノスリ	○						○	
25	サシバ	○				○		○	
26	チュウヒ					○		○	
27	ハヤブサ					○		○	
28	チョウゲンボウ	○				○		○	
29	コジュケイ			○				○	
30	キジ	○		○				○	
31	バン	○		○		○		○	
32	オオバン	○						○	
33	コチドリ			○		○			
34	アオアシシギ					○			
35	インシギ					○		○	
36	タシギ	○						○	
37	コアジサシ			○					
38	キジバト	○		○		○		○	
39	カッコウ			○					
40	カフセミ	○		○		○		○	
41	アリスイ							○	
42	アオゲラ							○	
43	コゲラ	○		○		○		○	
44	ヒバリ	○		○		○		○	
45	ツバメ	○		○		○		○	
46	ハクセキレイ	○		○		○		○	
47	セグロセキレイ							○	
48	タヒバリ							○	
49	ヒヨドリ			○		○		○	
50	モズ	○		○		○		○	
51	ルリビタキ							○	
52	ジョウビタキ	○						○	
53	ノビタキ					○			
54	アカハラ							○	
55	シロハラ	○						○	
56	ツグミ	○						○	
57	ウグイス	○		○				○	
58	オオヨシキリ			○		○			
59	セッカ			○		○			
60	エナガ							○	
61	ヤマガラス							○	
62	シジウカラ	○		○		○		○	
63	メシロ	○		○		○		○	
64	ホオジロ	○		○		○		○	
65	カシラダカ	○		○		○		○	
66	アオジ							○	
67	オオジュリン	○							
68	アトリ	○							
69	カワラヒフ			○		○		○	
70	ベニマシコ	○							
71	シメ	○						○	
72	スズメ	○		○		○		○	
73	ムクドリ	○		○		○		○	
74	カケス							○	
75	ハシボソガラス	○		○		○		○	
76	ハシブトガラス	○		○		○		○	
77	ドバト	○		○		○		○	
78	ガビチョウ			○				○	

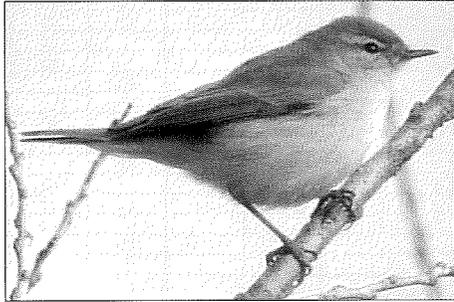
※分類は鳥類目録第6版に準拠

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●チフチャフ

分類 スズメ目ムシクイ科ムシクイ属
英名 Common Chiffchaff
学名 *Phylloscopus collybita*

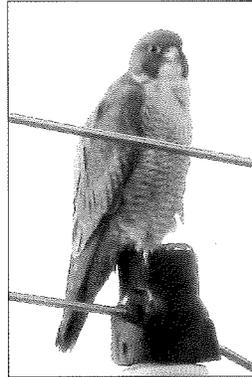


2011年12月24～25日と2012年2月21～22日の4日間、吉川市内でチフチャフ1羽を観察撮影したと、田中史雄さんという会員ではない方から写真2枚を添えてご連絡いただきました。上下面の色、過眼線、初列風切、嘴、足などの特徴から、チフチャフとして記録すべきと判断しました。県内初記録、327種目です。

本種はヨーロッパからシベリアで繁殖し、アフリカで越冬、日本では迷鳥として、1996年11月富山県、1997年11月大阪府と石川県、2007年1月東京都などの記録があります。

●亜種オオハヤブサ

分類 ハヤブサ目ハヤブサ科ハヤブサ属ハヤブサ亜種オオハヤブサ
学名 *Falco peregrinus pealei*



2013年1月15日さいたま市内でハヤブサを撮影したが、亜種オオハヤブサではないだろうかと、小境恵理さんという会員ではない方からメールが届きました。

いわゆるハヤブサ髭が太く、頭部が頭巾をかぶったように黒いこと、胸から腹部が白地にしっかりした横斑が認められることなどから、亜種オオハヤブサとして記録すべきと判断しました。県内で亜種オオハヤブサの記録は初めてです。

本亜種は千島列島からアラスカ西海岸にかけて繁殖し、迷鳥として北海道、2005年12月宮城県、2009年3月鹿児島県などで記録されています。

2012年埼玉県鳥見ランキング結果

日本野鳥の会埼玉 普及部

恒例となりました埼玉県内鳥見ランキング2012年の結果を発表いたします。

観察鳥種数部門、探鳥会参加部門ともに内田克二さんがチャンピオンに輝きました。年間観察鳥種は171種と、これまでの最高記録172種(2010年船木数樹氏)に次ぐ記録です。

探鳥会参加ランキングでは67回と、これまでの最高記録63回(2006年鈴木敬氏)を塗り替えることになりました。当会が開催する探鳥会にほとんどどこかで参加されたことになります。敬服。

2012年観察鳥種数ランキング

順位	鳥種数	氏名	住所
1	171	内田 克二	さいたま市
2	145	吉原 早苗	北本市
3	139	千島 康幸	小川町
4	137	佐藤 宏	越谷市
5	112	榎本 秀和	鴻巣市
6	85	浅見 徹	さいたま市

2012年探鳥会参加ランキング

順位	参加回数	氏名	住所
1	67	内田 克二	さいたま市
2	58	藤掛 保司	川越市
3	44	吉原 早苗	北本市
4	29	佐藤 宏	越谷市
5	22	浅見 徹	さいたま市



野鳥情報

行田市小針 ◇11月10日、行田浄水場裏、東京マシン会社隣の牛舎でシラコバト2羽。その後、12月と1月に数度行って見ても姿が見えず。ムクドリとキジバトが出入りしているのみ（茂木幸蔵）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇12月3日、チョウゲンボウ1羽、キジ♂1羽、加田屋川にはマガモ♂エクリプス1羽、コガモ♀2羽、♀4羽、オカヨシガモ♂5羽、♀8羽、カワセミ1羽。12月13日、「思い出の里」敷地内の湿地にイカルチドリ2羽。タシギ1羽、農耕地の水路から飛び立つ。タヒバリ10羽十、飛び回る。まとまった群れを見るのは1ヵ月ぶり。渡りの第2陣だろうか？ミヤマガラス100羽十の群れ、畑で採食したり、飛び立って高木にとまったり。その中にコクマルガラス暗色型が少なくとも2羽。加田屋川にバン成鳥1羽、若鳥1羽。1月1日、ノスリ1羽、ハシブトガラス数羽に追われて飛ぶ（小林みどり）。

さいたま市見沼区染谷 ◇12月3日、キジ♀1羽、雑木林の林縁をゆっくり歩く。エナガ、メジロ、ヤマガラ、シジュウカラの混群。12月13日、ヒガラ1羽、カシラダカ3羽十。1月1日、染谷しょうぶ園駐車場でアカゲラ♀1羽、他にもう1羽。ルリビタキ♀型1羽。1月10日、ルリビタキさえずる。シロハラ1羽、林縁をうろつく。カシラダカ10羽十、アオジの個体数も多い（小林みどり）。

さいたま市見沼区蓮沼 ◇12月3日、自宅近くの小さな林にアカゲラ♀1羽、時々「キョッ、キョッ」と鳴きながら枯れ木をつつく。この場所に3～4日滞在した後、いなくなつた（小林みどり）。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇12月3日、シロハラ1羽、ヒガラ、シジュウカラ、メジロの混群（小林みどり）。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇12月6日、ルリビタキ♀型1羽、さえずる。脇のオレンジ色が濃いのが尾の青はそれほど濃くない。

そこへ♀型がもう1羽飛んできて、前からいた1羽を追い払う。こちらは脇のオレンジ色が薄い個体（小林みどり）。

さいたま市北区芝川（県道2号線～鷲山橋）

◇12月6日、カイツブリ冬羽2羽、コガモ♂4羽♀5羽、ハシビロガモ♂換羽中3羽、♀2羽、キンクロハジロ♀型1羽、チョウゲンボウ1羽、カラスと争う。12月10日、ヒドリガモ♂3羽♀1羽、ハシビロガモ♂換羽中2羽、エクリプス1羽、タシギ2羽。12月25日、ゴイサギ若鳥1羽。ヒドリガモ20羽十、この辺でこれだけ集まるのは珍しい。オナガガモ♀2羽、連れだつて泳ぐ。少し離れた場所に♂1羽。オオバン1羽、カワセミ1羽。1月7日、ゴイサギ成鳥1羽。コサギ1羽、背に飾り羽、冠羽は、まだ。オカヨシガモ♂1羽♀1羽。オナガガモ♀2羽、相変わらず仲良し。キンクロハジロ♂1羽、♀型2羽。カワセミ1羽、もう1羽の後を追って飛ぶ。ヒヨドリ10羽十、川の浅瀬に代わる代わる降りてきて水を飲むが、水浴びをするものはいない。さすがに寒いのだろう（小林みどり）。

蓮田市馬込 ◇1月1日午前7時、自宅の植木でメジロとシジュウカラの混群の中にコガラがいた。また、別のシジュウカラの群れの中にヤマガラがいた。1月4日午後3時過ぎ、自宅庭の木でシジュウカラと共にヤマガラ2羽、コガラ1羽。1月5日、コガラ、ヤマガラ、メジロなど。コガラが珍しい。1月8日、シメ、ヤマガラ、ジョウビタキなど。庭でシメを見たのは初めて。1月10日、オナガ30羽位、ウソ♀1羽、メジロ、ツグミなど（本多己秀）。

行田市小針 ◇1月2日昼前頃、古代蓮の里正面の西側田んぼでタゲリ雄雌2組、計4羽が畦道と耕された土の上を動いていた（茂木幸蔵）。

久喜市菖蒲町上栢間 ◇1月2日、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ジョウビタキ、コゲラ、メジロ、カシラダカ、シロハラ、カケス。シメが5～6羽の群れ4～5群で飛び回る（本多己秀・久文字）。

白岡市西 N36.0138 E139.6495 ◇1月2日、

元荒川八幡橋下流でタシギ12羽が中州で採餌。他にイカルチドリ3羽、コガモ50羽、カルガモ50羽（長嶋宏之）。

久喜市菖蒲町柴山 N36.0536 E139.6030

◇1月2日、ミヤマガラス300羽土が田んぼで採餌。コクマルガラスはいなかった（長嶋宏之）。

久喜市菖蒲公園昭和沼 ◇1月2日、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、ミコアイサ♀1羽、オオタカ成鳥1羽、ダイサギ5羽、カワセミ2羽、オオバン、カンムリカイツブリ（長嶋宏之）。

久喜市菖蒲町小林 N36.0675 E139.5734

◇1月2日、ニュウナイスズメ50羽土がカワラヒワ50羽土と群れになって一緒に田んぼで採餌したり、電線に飛び上がった（長嶋宏之）。

北本自然観察公園 ◇1月3日、エナガ、ヤマガラ、ヒガラ、ルリビタキ♂1羽、♀1羽、シロハラ、アカハラ、アトリ1羽、ウソ♀2羽、ソウシチョウ鳴く（藤原寛治）。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇1月4日午後1時頃、コハクチョウ8羽と5羽と26羽の3群。ホオジロガモ15羽、イカルチドリ、シロハラ、アオジ、カシラダカ、ジョウビタキ、モズ、ツグミなど。ハイタカ1羽が滑り込んできた（本多己秀・久文字）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇1月5日、シロハラ1羽、ウグイス地鳴き1ヵ所、シジュウカラとメジロの混群にヒガラ1羽とヤマガラ1羽が混じる。東沼にカルガモ21羽。一度にこの数が入ったのは初めてだ。1月9日、アオジ2羽、ウグイス地鳴き3ヵ所、ジョウビタキ♀1羽、カルガモ19羽、シメ2羽。1月13日、針広混交林で何か落ちてきたと思ったらヤマガラだった。静かにしていると、1羽、また1羽。計5羽が舞い降り、落ち葉を掻き分け餌をあさっていた。近くの枝にシジュウカラ、メジロ、ヒガラ、コゲラも。その他、シロハラ2羽、ジョウビタキ♀2羽、オナガ5羽、ツグミ3羽、カルガモ13羽。1月18日、真っ直ぐケヤキの木に入った鳥がいた。探したらアカゲラだった。その他、シロハラ3羽、アオジ1

羽、シメ1羽、エナガ1羽、コゲラ4羽、カルガモ9羽（長嶋宏之）。

吉見町八丁湖公園 ◇1月12日、マガモ、キンクロハジロ、カワウ、カイツブリ、ウグイス、ルリビタキ♀型、アカゲラ、コゲラ、ヤマガラ、カワセミ、シロハラ、アオジ、アトリ3羽、ガビチョウ。シロハラとアオジが多かった（本多己秀・久文字）。

蓮田市馬込根ヶ谷戸公園 ◇1月14日、アカハラ1羽、シメ1羽、ツグミ、ヤマガラなど。ここでアカハラ、ヤマガラを見るのは初めて（本多己秀）。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇1月15日午後2時頃、ルリビタキ♀1羽、前日降り積もった雪を背景に清楚な姿を現してくれました（菊川和男）。

さいたま市見沼区深作遊水池 ◇1月17日、ゴイサギ若鳥1羽、マガモ、コガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ。ノスリ1羽、ハヤブサ1羽。オオバン30羽+。セグロセキレイ2羽、争う。ベニマシロ♂1羽、♀1羽（小林洋一、小林みどり）。

坂戸市西坂戸二丁目 ◇1月18日午後3時頃、自宅裏の葛川で上流方向から下流方向に水面の上をカワセミが飛ぶ。流れの中の小石上にいたセグロセキレイがスクランブル!? 1月19日午前7時40分、葛川護岸上にシロハラ1羽。すぐそばにアオジが飛来、シロハラが近づき威嚇するもアオジは少し逃げるだけで、数回追いかけてこを繰り返す。その上、公園のヤナギの枝にシメ1羽。後方の木の枝にツグミ1羽。自宅室内の窓から見る（増尾隆・節子）。

さいたま市緑区 ◇1月19日、トラフズク2羽。午前8時から午後3時まで120人来訪。枝を切る人、折る人、ガードレールを叩く人、大声を出す人、その人への注意、大変だー！このトラフズク大事にしたい（野口修）。

表紙の写真

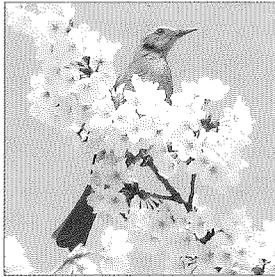
スズメ目ホオジロ科ホオジロ属ミヤマホオジロ

今年2月、武蔵丘陵森林公園の梅林で。

中村豊己（東松山市）



行事案内



ヒヨドリ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

この案内は、執筆当時の時刻表に基づいています。3月末に鉄道・バスの時刻表変更があるかもしれません。ご注意をお願いします。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月7日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、浅見、大坂、内藤、相原(修)、岡安、立岩、永野、山野、飛田、吉原(早)、相原(友)、柴田、村上、長谷川

見どころ：北国に帰る前に色づいてきた冬鳥たちとの、お別れお花見探鳥会です。今年も桜とカタクリの花が待っているかな？

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：4月7日（日）

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、須崎、倉林、野口(修)、大井、藤田、赤堀、若林

見どころ：寒さが厳しい冬でした。暖かい満開の春がまちどおしい。今年の民家園周辺は、花花花、鳥、花花、鳥、花花花、鳥鳥、花花花、鳥、

花花って感じです。天気が良いといいですね。今月号の特集(2~3ページ)は当探鳥会です。ぜひご参加ください。また、例年3月中にバスの時刻改正があります。ご確認ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月14日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：千鳥、倉崎、栗原、新井(巖)、飛田、鶉飼、中川、村上

見どころ：桜を眺めながら土手を歩き、野鳥の森まで行きます。ジョウビタキ、ツグミたち、冬鳥を見送り、ツバメを迎え、ウグイスのさえずりに耳を傾けましょう。昨年はハイタカ属3種に会えました。



2月16日、滑川町森林公園で。
ジョウビタキ(プリングマン・ウィリアム)

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月14日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、水谷、小林(ま)

見どころ：今回は周辺の林地を主に歩きます。早い渡りの夏鳥に期待し、湖では遅い渡りの水鳥を探します。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月20日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：倉林、青木、浅見、小林(み)、須崎、赤堀、宇野澤、楠見、小菅、柴野、新部、増田、畠山、若林、渡辺

見どころ：三室にも気の早い夏鳥が立ち寄ってくれる頃。昨年4月は、コチドリとツバメが出迎えてくれました。今年は？

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月21日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から、春日部エミナース行き 8:41 発で「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、吉安、橋口、吉岡、野村(弘)、野村(修)、進士、佐藤、佐野

見どころ：冬鳥と夏鳥の入れ替わりの季節。どんな鳥が居残り、どんな鳥が新たにやってくるのか、楽しみです。里山・内牧の新緑に心をはずませながら、野鳥との出会いを期待したいと思います。

帰り：春日部駅西口行きバス13:07、14:20発。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月28日(日)

集合：午前9時10分、「桜区役所バス停」付近。

交通：JR浦和駅西口⑤番バス乗り場から、大久保浄水場行き 8:33 発で「桜区役所」下車。

担当：倉林、海老原、新部、増田、金子、小林(み)

見どころ：今年も楽しみな季節が来ました。昨年はずばらしい鳥たちが出てくれました。今年はどうかな。期待を胸に、ご参加ください。

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月29日(月・祝)

集合：午前9時10分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス②番乗り場から鳩山ニュータウン行き 8:39 発で「大東文化大学」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：中村(豊)、藤掛、岡安、志村、増尾、千島、高橋(優)、松下

見どころ：里山は早くも新緑の季節。若葉の萌え出た雑木林で渡り途中の鳥との出会いを期待しましょう。耳を澄ませればキビタキ、オオルリ、センダイムシクイなどの声が聞こえてくるかも。足元に咲く可憐な草花も待っています。アップダウンのある山道を歩きます。

ご注意：集合時刻が早くなっています。バス時刻にご注意ください。

シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日(月・祝)

当会では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。ぜひ、ご参加・ご協力をお願いします。

◆大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分、大久保浄水場の西北角近くの土手の上(グラウンド入り口)。

担当：石井(研究部)

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。シギ・チドリ類が大変少ないこともあります。

「やつしまニュータウン」バス停から土手上を歩く道は、公園内の迂回路も全部通れなくなりま



行事報告

9月2日(日) リーダー研修会

参加: 49名 場所: 埼玉県自然学習センター

テーマは「楽しい探鳥会の作り方」。(公財)日本野鳥の会から主任研究員の安西英明氏をお招きしての講演『楽しい探鳥会・盛り上げの極意』。その後全員でテーマについてのブレインストーミングを行った。午後からは自己紹介、各部からの報告、会の概況などのプログラムが進み、最後に新リーダーに藤掛代表から腕章の授与が行われ、有意義な研修会を終了した。新リーダーは中川敏子、内田克二、松下光、鈴木秀治、柴田和見、村上政直(敬称略)。(橋口長和)

11月3日(土) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加: 46名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オオタカ クイナ バン イカルチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 公園北側の工事の影響か、はたまた暑い夏の後遺症かカモの数が極端に少なく、楽しみにしていたミコアイサの姿も見えない。周辺の屋敷林でも冬鳥の姿が少なく感じた。シラコバトは最後まで姿を見せてくれなかったのも寂しい限りだった。(橋口長和)

12月2日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加: 15名 天気: 曇

カイツブリ カワウ カルガモ ヒドリガモ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外: ドバト) 二つのフリー・マーケットの

喧騒を小鳥たちは気にもせず、いつも通りに我々を迎えてくれた。歩き始めて間もなくフェンスの上でモズが、常緑樹の中でメジロの群れが、桜の下ではヤマガラが、そして池ではヒドリガモの群れが見られた。針葉樹の中でカラ類の混群が喧しい。中にヒガラが確認できた。ここでのNew Birdだ。植物園ではウグイスが地鳴きをし、3羽のアオジが植え込みの根元で何かを食べている。誰かがシロハラを見つけた。植物園の出口近く、電線にミヤマガラスの群れ。独特の面構えだ。葦原の縁ではキジが何かを探している。草原では灌木の枝先にホオジロが2羽ならんで陽をあびている。赤味を帯びた腹部が綺麗な。終わり近くジョウビタキの♀が愛くるしい目をこちらに向けてくれた。終了後、さいたま水族館から視察に来られた二人もにこやかに帰って行った。(長嶋宏之)

12月2日(日) 北本市 石戸宿

参加: 53名 天気: 晴後曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハイタカ ノスリ キジ クイナ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (38種+タカ科ハイタカ属不明種1) この冬一番の冷え込み。霜が降りて真っ白な滑りそうで危ない木道を歩き出してのスタート。この冬は例年に無く鳥の羽数も種数も多いとの実感は、石戸宿も同じだ。どこでもヤマガラが多いと評判だが、シジュウカラもメジロも例年よりも多いと感じる。高尾の森の先の梅林では、ヒガラをジックリ観察できたし、桜堤に出る手前では、ヒガラの群れが見られた。また、アカゲラ、カケスなどもみんなで見ることができ満足。また、2009年の年末講演会に来て頂いた唐沢孝一氏がリーダーのY氏と一緒に参加された。鳥合わせの後で短時間だったがお話頂いた。(吉原俊雄)

12月2日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 64名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ アオサギ オオハクチョ

ウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカ
 ヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジ
 ロ オオタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チ
 ョウゲンボウ バン オオバン キジバト カワ
 セミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
 ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ
 メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラ
 ヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハ
 シボソガラス ハシブトガラス (43種) (番外：ド
 バト) かなり寒くなるかな……と思っていたら、
 風が無く陽もあり、うららかな日になった。その
 ためか、64名と参加者数も多く、気持ちよく歩け
 たのでは。出会えた鳥たちも、オオハクチョウや
 カンムリカイツブリ、8種類のカモたちなど、冬
 鳥ウオッチングとして十分納得していただけるメン
 バーだったと思う。ただ、もう少し近距離で観
 察できるとうれしいのだが……。(伊藤芳晴)

12月8日(土) 所沢市 狭山湖

参加：23名 天気：快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
 ブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カ
 ルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オ
 ナガガモ キンクロハジロ ミサゴ トビ オオ
 タカ ノスリ キジバト アカゲラ コゲラ ハ
 クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
 ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エ
 ナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ
 ウソ イカル シメ スズメ カケス ハシブト
 ガラス (39種) (番外：ガビチョウ、ソウシチョウ、
 ドバト) 玉湖神社周辺の林地でウソ、アカゲラが
 相次いで出現。この2種は6年前に揃って出て以
 来の記録になる。湖上にはハジロカイツブリが例
 年になく多く、40羽位の群れが目をついた。この
 冬は何か起きそうな期待をもたせる幕開けだ。
 「この冬も 湖に鳥 渡り来ぬ 波は淡々 ときざみ
 いて」 (石光 章)

12月8～9日(土～日) 新潟県 朝日池

参加：26名 天気：8=雹、9=雪

カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサ
 ギ マガン ヒシクイ ハクガン コハクチョウ
 マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリ
 ガモ オナガガモ ミコアイサ カワアイサ ト
 ビ オジロワシ ノスリ セグロカモメ ハクセ

キレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワラヒワ
 スズメ ムクドリ ハシボソガラス (27種) (番
 外：ドバト) 2日間朝日池の天気が大荒れで、1
 日目は強風で雷が鳴り雹も降ってくる始末。水田
 にいるマガン達をバスの車内で観察。運が良くハ
 クガン1羽を見る事が出来た。ホテルの窓から朝
 日池を見る事が出来るので、夕暮れの暗い中ガン
 達の落雁を見る事が出来た。夜は地酒で親睦会。
 ホテルの懐石料理に参加者全員が舌鼓を打つ。2
 日目は一面銀世界。27年ぶりという大雪にビッ
 クリ。早朝は、池の近くでマガンの飛び立ちを見る
 事が出来た。天候が回復しないのでホテルのラウ
 ンジで観察をした。コーヒーを飲みながら目の前
 をオジロワシが優雅に飛ぶ姿を見る事が出来た。
 池に浮かぶカモ達をじっくり観察できなかったの
 が心残りだが、事故なく無事に探鳥会が出来たの
 も参加者の協力があつての事。この場を借りて参
 加者に御礼を申し上げます。(入山 博)

12月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加：24名 天気：快晴

カワウ カルガモ オオタカ ノスリ ハヤブサ
 キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキ
 レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウ
 ビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヒガラ
 ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カ
 シラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ ス
 ズメ ムクドリ カケス コクマルガラス ミヤ
 マガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (34
 種) (番外：ガビチョウ) 快晴の空の下、土手に上
 がって眺めても鳥は見えない。草地からの鳥の声
 もない。鉄塔の上でハヤブサが獲物を食べていて、
 じっくり観察することができた。草地にホオジロ、
 アオジ、ゴルフ場の境の木にモズ、ジョウビタキ、
 土手の桜の木にウソ♀が現れた。草の実をカワラ
 ヒワの群れが夢中で食べていた。シメがあちこち
 飛び回っていた。河原で空を見上げると、ミヤマ
 ガラスの群れ。コクマルガラスが混じっていた。
 林を抜けたところで、遠くの木にノスリが止まっ
 ていた。野鳥の森の池では、上空にオオタカ。カ
 ラスにモビングされていた。メジロ、シジュウカ
 ラ、シメ、ヤマガラ、ヒガラ、ヒヨドリが水を飲
 みに現れた。一時多かった冬鳥が少なくなったの
 は南下したせいだろうか？ 次の群れに期待したい。
 (千島康幸)



●**オリンピック施設計画変更に関団体署名**

(公財)日本野鳥の会と日本野鳥の会東京は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会に対し、葛西臨海公園でのカヌー(スラローム)競技場建設の変更についての要望書を、昨年8月 23 日付けで提出しました。

オリンピックの東京招致に反対するものではなく、他に適した候補地が存在するのに、現計画では葛西臨海公園の豊かな自然環境が破壊され、かけがえのない自然との触れ合いの場が消滅することから、計画変更を求めるものです。

本年 1 月 31 日付けで、日本野鳥の会東京から当会に対し、その要望書に賛同する団体署名を求める郵便が届きました。

2 月 17 日の当会役員会で協議して賛同することを議決、その日のうちに団体署名を発送しました。

●**ダニ媒介の新ウイルス**

マダニの一種フタトゲチマダニから感染するウイルスによる重症熱性血小板減少症候群(SFTS)による死亡例が報道されています。このウイルスは前から存在していたもので、最近急に危険性が高まったわけではなく、必要以上にこわがる必要はありませんが、長袖、長ズボン、防虫スプレー、風呂・シャワーでダニの付着を防ぎ、万一高熱が数日間以上続いた場合は病院に行き、野外活動の状況を伝えてください。かまれても痛みを感じにくく、痕が残らないケースもあります。感染から発病までの潜伏期間は 6 日から 2 週間です。

中国の患者が多い地域のマダニのウイルス保有率は 5.4%との新聞報道もあり、

かまれても、発症する確率は低いと言えます。マダニは日本全国の野山や湿度が高く動物がいる場所に生息し、春から秋にかけて活発に活動します。顎の部分が残った場合は、自分で取らずに、やはり病院に行ってください。

●**会員数は**

3 月 1 日現在 1,879 人。

活動と予定

●**2月の活動**

2 月 9 日(土)『しらこぼと』3 月号校正作業 (海老原美夫、小林みどり、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎)。

2 月 17 日(日) 役員会(司会：海老原美夫、各部の報告・県鳥獣保護員推薦・5~8 月行事予定・その他)。

2 月 18 日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』3 月号を郵便局から発送作業 (倉林宗太郎)。

●**4月の予定**

4 月 6 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

4 月 13 日(土) 5 月号校正(午後 4 時から)。

4 月 20 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

4 月 21 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

2 月上旬、職員旅行で九州に行った。宮崎の青島ではツバメが飛び回り、天草では雨の中のイルカウォッチング中に、カツオドリが 2 羽飛んでいた。でも、できれば出水に行きたかったな～ (藤原)

2 月下旬、探鳥旅行で沖縄に行った。西表島ではカンムリワシ、石垣島ではタカサゴモズ、沖縄本島ではヤンバルクイナに会うことができた。一番驚いたことは田植えが始まっていたことだ。(山部)

しらこぼと 2013 年4月号(第 348 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社